脳梗塞を起こしても元気に社会復帰するために知っておきたいこと 第1弾

疑うポイントは3つ
1つでも突然起これば
すぐ救急車を

脳梗塞は、脳の血管が何らかの原因で詰まってその先に血液が届かなくなり、脳細胞が酸素などの不足で死んでしまう病気だ。歌手の西城秀樹さん（故人）がかかった病気としても知られる。今は治療技術が進化し、適切な対応が取れれば命が助かるばかりか、社会復帰もスムーズにいく。知っておくべきことを専門医に聞いた。

「脳梗塞は治療が遅れれば、命を落としたり、後遺症が残る可能性が高くなります。少しでも早い場合によっては、『片方の手が使いづらくなる』『ろれつが回らなくなる』などの症状が、数分間で消えることがある。

しかし、これも脳梗塞が疑われる。脳の血管に詰まった血栓（血の塊）が小さく、いったん血流が妨げられるが、血栓が流れて血管の詰まりが解消されるため、すぐに症状が治まるのだ。

「しかし、本格的な脳梗塞を起こす前触れです。早く来ていれば」と悔やまれるケースが珍しくないとこと。

アンナ医科大学東横病院副院長で、同病院脳中センター長の植田敏浩医師だ。ところが実際は、「しばらく様子を見てから病院に来た」という人が多く、「あと少し早くお薬や救急車を使っていれば」と悔やまれるケースが珍しくないとこと。

脳梗塞かも、と疑うべきポイントは主に3つある。まず1つ目は、どちらか片方の手が使いづらくなる。しびれたりするなど感覚があり、力が入らず、お箸や茶碗を落としてしまう。ボタンをうまく留められなくなる、などだ。

2つ目は、ろれつが回らなくなり、言葉が不明瞭になる。言いたいことが言えなくなる。

そして3つ目は、顔面の片方に麻痺が起こる。

2つ目と3つ目は、「心筋梗塞など脳の病気があるので、たいていの人はすぐに救急車を呼びます。しかし、脳梗塞は痛みがありません。だから、『もう少しすれば治る』と考えてしまう。高齢者は、救急車呼ぶのに抵抗を覚えがちなものもあるでしょう。しかし、1分1秒でも早く病院に行かなければならない、緊急性のある状況なのです」（植田医師＝以下同）

3つのうち1つでも突然起こったら、要注意だ。

「突然」というのは、昨夜寝るまでは何ともなかったのに、起きたら3つのうちどれかがあった、というケースも含む。すぐに救急車を呼ぶべきだ。

痛みなし

症状がすぐ消える
それでも油断禁物

脳梗塞には、3つのタイプがある。脳血管にできた血栓がポンと脳に飛んで詰まったのが詰まる「心原性脳梗塞」、脳の動脈などの不整脈が原因で、アテローム血栓性脳梗塞をクラナ脳梗塞は動脈硬化に関係がある。

「動脈硬化を起こす高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満などに該当する人は脳梗塞のリスクが高いのですが、それらがなくても、脳梗塞を起こすことがあります」

病院選びも、脳梗塞の予後を左右する重要なポイントだ。現在、脳梗塞の最前線を紹介。

脳梗塞疑うべき3つの症状が突然生じたら、年齢や生活習慣病の有無に関係なく、すぐに救急車を呼ぶべきで、「24時間365日OK」となる病院が増えているものの、病院選びも、脳梗塞の予後を左右する重要なポイントだ。現在、脳梗塞の最前線を紹介。

有効な治療として「血栓回収療法」が注目されている。2010年に国内で行われるようになって以来、この治療が受けられる医療機関は徐々に増えているものの、「24時間365日OK」となる病院は限られる。